

グループもみじ

法人理念



「ひとりの人を大切にした まごころ介護」

「ひとりの人の可能性を信じる まごころ介護」

私たちグループもみじは出会いから最期まで
ご本人・ご家族のパートナーとして寄り添い続けます。
「必要なときに・必要なことを・必要なだけ」
もう一つのわが家として暮らしのお手伝いをいたします。

夏の日差しが眩しいこの頃、いかがお過ごしでしょうか。今年は早々と梅雨明けしたと思ったら、連日猛烈な暑さが続いており、また新型コロナウイルスへの配慮も欠かせない毎日です。この状況が一日も早く解消され、平穏な日々が取り戻せるよう心から願っております。

グループもみじは今後も変わらず皆様をサポートし続けてまいります。

みんなのあもり



さくら



長野市 & 松本市

夕やけ小やけ



今年も桜が満開になりました

みんなのあもり



「桜がきれいに
咲いたね」
「天気も良くて最高
だよ」



満開の桜の下、花をめでながら「今日は暖かいね!」「ちょうど満開!皆で見ると楽しいね」と会話を楽しみました。
室内では屋台が開かれ、チョコバナナや飴などのお菓子、甘酒や煎茶などを出しました。
特に甘酒が好評で、「良いのができたなあ!」とお代わりをされる方もいました。
昼食は春の味覚を豪華に盛り込んだお花見弁当。また来年も皆で春を迎えられますように!





宅老所さくら

近くの公園へ
花見に出かけました。
「美しい花に触れると元気がもらえる
気がする」と満開の桜に笑顔が
あふれます。



何気ない一瞬が
大切な思い出です！



2022年 七夕に願いを込めて



短冊を集め笹の葉に飾り付
「さくらの皆が元気でいられますように！」
皆で「ありがとう」とお礼をして記念撮影。



杏仁豆腐の上にブルーゼリーをのせて、星形の
デザート盛り付けました。
1人1人個性あふれる七夕デザートが完成！
すべてお年寄りとスタッフとの手作りです！

グループもみじの 2021 年

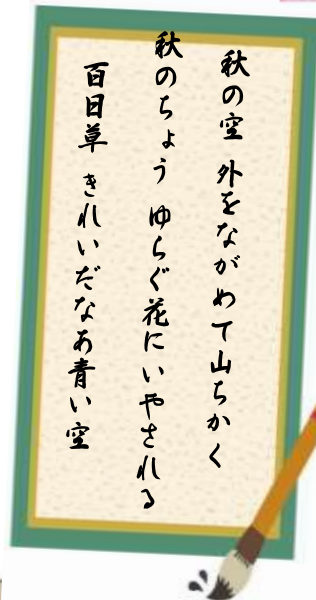
タやけ小やけ お茶会で一句

五七五

10月



お見事!



みんなのあもり コーヒーでほんと幸せに



バリスタ自慢の最高級コーヒー「イエメン・バニーマタル」
のお味はいいか?



ありがとう!
おいしいね!



宅老所さくら お茶会・菊会 健康を願って

11月



<菊尽くしメニュー>
菊のちらし寿司
白身魚の菊あんかけ
菊サラダ
お吸い物



菊の節句に、古来より
毒消し効果があると
された菊を食べて、
無病息災に！



みんなのあもり開所記念に



みんなのあもりの開所記念日に
田中代表より、これまでのみんな
のあもりの思い出や感謝の言葉が
述べられました。



ありがとう！ 2021 歳忘れ会

12月



みんなのあもり



宅老所さくら

三味線の演奏に合わせて
熱唱しています



着物姿のスタッフの子ども
たちがプレゼントを手渡し
すると、「可愛いお嫁さんみ
たいだね」と笑顔を見せて
いました。

サンタさんから
「さくらオリジナル
カレンダー」の
プレゼントです



タヤけ小やけ



コロナ感染で学んだもの

コロナ感染から宅老所さくら営業再開まで

コロナ禍において、毎日テレビや新聞等でコロナ感染・クラスターについて報道され職員一人一人も責任ある行動、事業所としても感染対策はしっかり行っていた中で、今回まさに「まさか」の事態になってしまった。ここまで感染力が強いという部分に関しては想像をはるかに超えていたというのが正直なところであった。その中で今回強く感じたことは、複数名の陽性者は出てしまったが、法人、事業所として「コロナが出てしまった場合の対応」について日々の中で意識を持ち「このまさか」が起こってしまったときの為の対応がしっかりできるよう準備ができていたことで、それがいかに活かされたかをまとめてみた。

1、ハウレンソウ・コロナ感染判明

スタッフ A さんがその日の朝少し喉に異変を感じたので念のため病院を受診、PCR 検査でその後陽性が確認された。A さんがこの日に病院を受診せず、自分の中で「ただの風邪」で済ませてしまっただけで出勤をしていたら陽性者が増していたことは明らかである。その行動、報告があったことで、この日のうちに利用者の通所を止めることができた。



2、事業所の休止とその後の対応

事業所の休止に関しては苦渋の決断であった。約 10 日間の休業というものは言葉では言い表せない無力さと歯がゆさを痛感した。職員も陽性者、濃厚接触者と全員が隔離状態であり、訪問することも困難な状況の中で唯一できることは毎日の電話での安否確認であった。

ただ、ご家族も 1 週間過ぎたあたりから限界を感じられている方も多々おられ、「あと 3 日で再開しますから」「あと 2 日で再開しますから」と励ましあい、頑張っていただくようお願いを続けることで、ただただ無事に時間が過ぎてくれることだけを願った。

悲しいことだが休業中に 2 人がお亡くなりになり、1 人が転倒により大腿骨を骨折されるという事態が起きてしまった。この出来事に関しては、いかにさくらがお年寄りにとって必要不可欠な居場所であったかをその方々が私たちに伝えて下さったものととらえ、私たちはこれからもお年寄り一人一人、ご家族一人一人に誠意とまごころをもって関わりたいと思う。



3、当たり前の日常は当たり前ではない

今まで毎日たくさんのお年寄りとスタッフと過ごしてきた。お年寄りが通って下さり、「お年寄りの必要に応えることができる事」「毎日働くことができる事」それを当たり前のこととと思っていたが、今回その当たり前の事がしたくてもできないということ、すべき事さえできないという経験をした。

今回無事に営業再開ができ、お年寄りと普通にすることができた日常のありがたさとてもいとおしく感じた。しかし「もうこれで大丈夫」という保証はないし、「次また感染者が出てしまったら」と考えると、常に気を緩めることなく行動していくことがとても大切なことだ。



4、最後に

感染者が複数名出た中で、私自身も休業期間中は不安で仕方がなかった。その中で心配して毎日連絡をくれて励ましの言葉やアドバイスをくださった方々のおかげで乗り切ることができた。なかなか日々の中で真の優しさや気遣いというものに触れることは少ないと思う。このようなことが起きたときに感じることで、触れることができる人の優しさや温かさは一生忘れられないことであり、支え合うということはどういうことなんだな～と感謝の気持ちで心が満たされた。そして、営業再開を待ってくれている方々がこんなにもたくさんいてくれたということにも、日々の積み重ねの大切さを実感した。

お年寄りにもご家族からも「ありがとう」と言っていていただくことが多い毎日だったが、本当に「ありがとう」を伝えなければならないのは私たちの方だ。これからも一日一日を大切に過ごしていきたいと思う。

宅老所さくら 管理者

R4 年 認知症の講演より

ながの認知症勉強会特別講演会より 6月27日（月）ながのふれあい福祉センターにて

ながの認知症勉強会は、「認知症を正しく理解し備えの波を“ながの”から」を合言葉に2020年10月から毎月1回、認知症の勉強会を開催していますが、今回、特別講演会の講師としてグループもみじの田中代表がお話をさせていただきました。



冒頭で田中代表は、「今日の私の話は、『認知症にならないためにはどのようにしたらいいのか』というよりはむしろ『誰がいつ認知症になってもいいような、たとえ認知症になっても人々が安心して今までどおりの暮らしが続けられるようにするにはどうすればいいのか』そのような社会や暮らし、家族について考えることも大切なのではないのでしょうか」と話されました。そして「認知症は脳の障害であって心の障害ではない。心は最後まで残っている、心の働きは豊かに保たれている方が多い。認知症は心の病ではなく脳の障害なのです」と強調されました。最後に、2018年にテレビ信州で放映された「宅老所の人々」のビデオを視聴し、グループもみじの日常の認知症ケアの様子を紹介させていただきました。

講演後に参加者からアンケートの回答をいただきましたので、一部抜粋して紹介いたします。

- ・自分の思いを押し付けるのではなく、同じ時を歩む努力をしていきたい
- ・認知症であってもよりよく生きることができれば、素晴らしい一生を過ごせるのだと感じた
- ・今の夫をそのまま受け入れていこうと心に決めた



グループもみじの認知症ケア！ ～もみじ学習会を通して～

私たちは実践に基づいた認知症ケアを学習し、その成果の事例を具体的にまとめて、今後も地域や社会へ還元していきたいと思います。

認知症の方への接し方がわからない…
お年寄りを地域で支えるためには何が必要？
自宅で最期を迎えることは可能？

介護でお困りのことなどお気軽に
お問い合わせください。



NPO 法人グループもみじ 〒380-0941 長野県長野市安茂里葭ヶ淵 1861
電話 026-227-4425 FAX 026-217-7764 ホームページ グループもみじ

検索

介護でお困りの事などお気軽にお問い合わせください。見学も随時受け付けております。

みんなのあもり

長野市安茂里葭ヶ淵 1861

026-226-0903

宅老所さくら

長野市吉田 5 丁目 13-7

026-244-7104

夕やけ小やけ

松本市並柳 1 丁目 3-18

0263-87-2760